

国際大学戦略セミナー2009 参加報告

2009.06.29

学術教養センター 山川 修

2009年6月26日に、品川にあるホテルパシフィック東京にて、国際大学戦略セミナーが開催され、福井県立大学のFD予算より旅費を支出していただき、山川が参加いたしましたので報告します。

◎招待講演

「学習成果を重視した学士課程教育の構築に向けて：「学士力」提案の背景と各大学の改革課題」

川嶋太津夫（神戸大学大学院教育推進機構教授・国際協力研究科教授）

川嶋先生は中教審で「学士力」をまとめた委員の一人である。その観点から、今後大学教育をどのように変えていくべきかを、「学士力」＝ラーニング・アウトカムという視点から、アウトカムを明確に定め、カリキュラムもアウトカムに沿ったものにし、最終的にそれを測定することにより、達成していこうという方法論を示された。ただ、議論に上っていたのは、各教科のアウトカムとその測定であり、それと、大学ではたすべきミッション



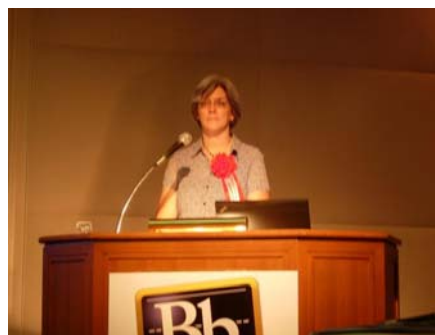
ン（しいては、学生に身につけさせるべきコンピテンシー）との間にはギャップがあるのではないかという疑問をいただき、その旨の質問をしたが、川嶋先生は各科目のアウトカムを積み重ねることにより達成可能だろうという考えで、平行線であった。ただ、話のなかで提案されているいくつかの改革ポイントは、検討に値するものだと感じた。たとえば、教員の所属する組織と学生の所属する組織は別物でもよく、学生が知識やスキルや態度を身につけるために、必要な講義や演習を各教員組織からの出向という形で対処するといった改革等である。

◎海外公演

「How the Blackboard Outcomes System Can Help Cultivate a Campus Culture of Assessment」

Stephanie Oetting (University of Saint Francis, Director of Institutional Research Office of Institutional Research and Effectiveness)

サン・フランシスコ大学では、大学全体および教育プログラムの評価が、教育の質向上および組織の意志決定において、中心的課題となっている。様々な評価活動を統合した大学全体の有効性（**Institutional Effectiveness**）評価プランの構築を通じて、評価活動をより効率的に管理するための戦略が必要になっているが、現在までの経験に照らして、様々なノウハウが話されていた。

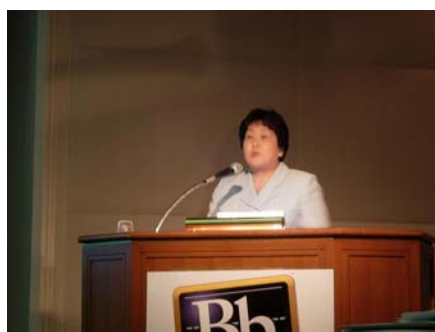


◎アウトカムズ評価実践報告

日本ではアウトカムズ評価はまだ始まっていないが、そのパイロットプロジェクトとして、岐阜大学と玉川大学が **BlackBoard Japan** と共同研究を行っている。その経過報告がなされたが、両大学ともまだアウトカムズ評価は始まっていないようである。玉川大学がルーブリックを作成したりして、今年、その端緒をつけようとしているので、来年の発表があれば楽しみにしたい。



加藤直樹（岐阜大学）



照屋さゆり（玉川大学）

◎招待講演

「我が国の大学の致命的欠陥」

諸星裕（桜美林大学大学院・大学アドミニストレーション研究科教授）

日本の大学がこれからの競争環境を生き抜いていくためには、ミッション（役割、使命）を明確に打ち出し、それを実現する教育をカリキュラムで設計し、その教育にマッチする学生を集め、育てていくということが不可欠であるという主張をされている。大学としては、どの大学でも同じようなミッションではなく、自分の大学の立ち位置を見極めるために、大学のミッ



ションとは何かということを構成員で真剣に議論を始めなければいけないのではないかと感じた。もちろん、ミッションを決めたらそれで終わりではなく、そのミッションに合うように、カリキュラムおよび教育の内容を変更していかなくてはならない。これはかなり大変な作業だと思うが、今始めないと手遅れになるような気がしてならない。

◎パネルディスカッション

講演者全員が参加して、フロアから質問をとり、パネルディスカッションが開かれた。特に目新しい観点はだされなかったので、ここは割愛する。